

## かいじゅうとぼく

浪崎 なみざき 琥央 こお

二年前の夏、ぼくにはいもうとができました。ずっと、おとうともいもうともいらな  
いって思っていたから、お父さんにきいたとき、うれしいなんて思えなかったです。ぼ  
くは、お父さんもおかあさんも、大すきだから、赤ちゃんなんかにとられたくないって：  
ぼくだけでいいのになって思いました。

おかあさんは、ずっとトイレではいてるのに、おなかをさわってうれしそうにしてる  
し、ぼくの手をにぎって「お兄ちゃんが、いい子いい子してくれてるよ。うれしいね。」つ  
て話しかけてても、なんだかやっぱりうれいって思えませんでした。

ある日、おかあさんが「いっしょにびょういんへいこう。」と言ったので、ついていく  
ことにしました。おなかにきかいをあてると、「トットトットトット」と音がきこえて  
きました。ぼくはビックリして、おかあさんの手をぎゅつとにぎりました。パソコンみ  
たいなきかいに、小さな赤ちゃんがうつりました。先生が、手と足、かおと体をおしえて  
くれて、「今日はよくうごいてるなあ。お兄ちゃんがいるからよろこんでるのかな。」と  
ぼくに言ったけど、ぼくは小さな赤ちゃんにむ中で、へんじがでなかつたです。

おかあさんのおながが、すごく大きくなって、さわると赤ちゃんがパンチやキックをしてきます。ぼくは赤ちゃんを「こっちゃん」とよんでいました。

八月二日の朝、お父さんにおこされて、三人でびょういんへ行きました。おかあさんはずっといたいてうなっていました。ぼくは、おかあさんがなかないか、すごく心配でした。ちがうへやへ、おかあさんが行くとき、「こっちゃんにやつと会えるよ。まっててね。」と言いました。しばらくまってるると、赤ちゃんのなくこえがして、かんごしさんがこっちゃんをつれてきてくれました。まっ赤なかおでずつとないてるこっちゃん、テレビや絵本で見たことのある赤ちゃんより、ずつとへんなかおしていたけど、ぼくはかわいいって思いました。

こっちゃんは、かいじゅうです。ぼくの大切なものもこわすし、らくがきもします。ぼくがあそんでいるものも、すぐとりにきます。かいじゅうは、すぐつよいからぼくは、まけてしまいます。たまにやりかえすと、ぼくがおかあさんにおこられます。おかしいと思うけど、これがお兄ちゃんのしごとなんだってぼくは知っています。お父さんもおかさんも、いつもぼくが一番すきって言うから、ぼくはお兄ちゃんがんばれます。

かいじゅうは、ぼくのことが一番すきっていつも言います。何回きいても、ぼくです。ぼくはそれをきくと、すぐくうれしくなって「ありがとう」ってこたえます。こっちゃんのお兄ちゃんにしてくれて、ありがとう。